

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和4年度第13回 理事会議事録

日時：令和5年1月16日（月）14:00-16:00

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、竹下 克志、  
田中 信弘、筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、  
根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、webで行われた。

1. 審議・決議事項

① 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

② 大正アワードの応募要件について

波呂理事長が、大正アワードの応募要件の変更点を提起し、その理由を述べた。またこの変更については、4月の学術集会の会員総会等で波呂理事長から会員へ向けて説明する。

一同討議の上、骨子は以下のように決定、承認した。

【2023年の応募条件】

「2023年1月1日～同年12月31日の間に、学術雑誌への掲載を受諾された原著論文（外国語、日本語）とする。

※受賞者は2024年度日本脊椎脊髄病学会学術集会にて受賞口演としての発表を必須とする。

【2023年の応募方法】

学会奨励賞申請書をダウンロードし、必要事項を記載の上、応募論文のコピー（in pressの場合は論文原稿とその受諾を証明する書類）、各6部をご自身で到着確認が可能な方法（宅配便、レターパック、簡易書留等）にて学会事務局に送付する。

また受賞口演に関しても、一同討議の上、「アワードセッションを設けて、大正アワードの受賞者（基礎1名、臨床1名）だけでなく、JSR（2名）・SSRR（1名）の優秀論文賞受賞者も受賞論文の内容を口演すること」を承認した。

詳細については、学術集会プログラム等検討委員会で検討する。

③ **メンバーシップ・コンプライアンス委員会：12月入退会審査**

12月の入退会について全員を承認した。

賛助会員規程が現状にそぐわない件についてのアンケートに対する返信が1社のみであったため、個別に各企業に意向を尋ねる予定である。

④ **英文誌編集委員会：SSRR動画制作に関する契約の件**

SSRR動画制作に関する株式会社クオトミー社との契約書を提示し、内容を説明した。すでに波呂理事長、小島顧問弁護士に目を通してもらっているが、気になる点があれば事務局まで一報する。

⑤ **新技術評価検証委員会：Unilateral Bi-portal Endoscopyの件**

UBE（Unilateral Bi-portal Endoscopy）についての国内での状況や、日整会（脊椎脊髄病委員会）での対応等を説明した。Smith & NephewおよびStrozからヒアリングを行い、PMDAやJSSR執行部およびNSJ執行部とも協議したうえで、JSSR-NSJ合同のUBE-WGを立ち上げることにした。このWGの目的等を説明したうえで、委員とアドバイザーの候補を提示した。一同検討の結果、上記を承認し、WG各メンバーにはCOIを提出してもらうことになった。

⑥ **データベース委員会：リスクカリキュレーター（術前項目の追加入力）とPROM入力の件（金村理事）**

JSSR-DB2021年分の分析結果をどこへ掲載すべきか検討した。一般に公開してしまうとどう使われるかわからないリスクが懸念されるため、日整会のJOANR報告に倣って、とりあえずは会員限定ホームページに掲載することになった。

JSSR-DBの2022・2023年度のフィードバック状況を報告し、今後リスクカリキュレーターを追加することについても検討した。前向きに考えることで一致し、詳細は委員会で検討していく。

また、日本人工関節学会にてPROM入力が始まったので、当学会のDBにもPROMの項目を追

加するか検討した。入力項目増による現場の負担増を懸念し、人工関節学会の動向を1年程度見守ってから、再検討することとなった。

## ⑦ その他

### JSR 編集委員会

以下2点を審議した。

1. 「評議員選出規程」のなかに『SSRR』の査読については義務として盛り込まれているが、『JSR』の査読辞退が多いため『JSR』についても同様に査読を義務としたい。一同承認し、規程に追加する条文については「英文誌」の代わりに「英文誌および邦文誌」とすることを定款等検討委員会で審議のうえ、理事会にて決定する予定となった。
2. 『JSR』の投稿画面に、二重投稿の注意喚起をする文面を追加することを一同承認した。ニュースレターにもお知らせとして掲載する。

### 安全医療推進委員会

町野委員が名古屋大から異動したため、伊藤 定之先生（名古屋大）に委員を交代することを承認した。

### モニタリング委員会

同様に町野委員が名古屋大学から異動したため、代わりに中島 宏彰先生と世木 直喜先生（ともに名古屋大）を委員として加えることを承認した。

## 2. 審議・報告事項

### ① 専門医制度委員会報告

指導医から専門医への暫定移行措置としての e-learning 受講を杏林舎に正式委託した。根尾理事と大磯顧問弁護士に講義ビデオ作製を依頼し、脊椎脊髄外科専門医委員会から謝金を予定している。

また第1回目の専門医更新へ向けた1月からのスケジュールや、有資格者が負担する更新のための費用等について説明した。有資格者へは個別のメールやニュースレター等を使ってしっかり周知する。

### ② COI委員会報告

2022年3月公表の「日本医学会のCOI管理ガイドライン2022」に準じて、「日本脊椎脊髄病学会における事業活動の利益相反（COI）に関する指針と指針の細則」の改訂を検討中であり、主

な改訂点を説明した。

機関誌についてのCOIは、推奨する提出書類書式が示されており、すでに日整会では対応しているため、当学会も倣っていく。

学術集会主演者・共同演者、共催セミナーの座長・演者についてもその演題に対してのCOI書類が刷新されるが、今年からの運用は間に合わないため、2024年以降からになる。

学会本体（組織）のCOIについては、日整会の動向を見てからとしたいので今回の改訂では変更しないということになった。

診療ガイドラインの作成者にはより厳しいCOI基準の遵守が求められているが、ガイドラインは日整会が作成するので、当学会では診療ガイドラインのCOIに関しては言及しないことになった。

今後上記方針で委員会において改訂草案を作成し、理事会に提示する。

### ③ 倫理委員会報告

前回理事会以降の倫理委員会での審議や決議の内容を報告した。

### ④ 新技術診断評価検証委員会報告

Globus社のLLIFの使用状況等について説明した。また各新技術WGの活動を報告した。

Depuy Synthes社のLLIFについては2023年中の上市へ向けてWGを作り評価していく。

UBEについては決議事項で審議した通り、JSSR-NSJでの合同WGを作り検討していく。

### ⑤ データベース委員会報告

2022年度の登録は14万件に達する予定である。

### ⑥ JSR編集委員会報告

JSRのニュースレターのバナー広告申込みがアステラス製薬（4・5・6月の3回分）よりあった。

### ⑦ 指導医制度委員会報告

指導医新規・継続の審査結果を報告した。

名誉申請者： 7名合格

継続申請者： 284 合格

猶予申請者： 4名合格、3名不合格（申請理由が不相当）

新規申請者： 114名合格

#### ⑧ 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。

関連大学や関連学会について、リンクが古くなっていたので、委員会内でルールを作り掲載内容をリニューアル予定である。

メドトロニック社からの機材提供の遅れについての記事を、会員限定ページのお知らせへ掲載した。

第31回日本医学会総会 分科会/加盟学会展示へ提出済みの最終ポスターデザインを提示した。

#### ⑨ 社会保険等システム検討委員会報告

令和6年度改訂に向けての要望項目の新設・改正についてそれぞれ提示した。Kコードのコーディングを精緻化すると外保連から要請があった。

#### ⑩ 脊椎関連学会連携促進委員会報告

Spine Week Japan 2025について現状を報告した。

- ・開催期間は、2025年10月30日(木)～11月1日(土)の3日間で開催地は幕張メッセに確定した。
- ・企業共催依頼の方法は6学会会長連名の趣意書を作成する。企業展示はコンベンションJCSまたは事務局が一括対応する。企業共催セミナーについては表紙に各学会単独の依頼状を添えて各学会長が企業に依頼する。
- ・本合同開催における財務取り扱いについては、事前分配金は2026年以降、会員数・演題数・参加者数・共催セミナー獲得数等の実績により分配金に関するルール作る予定である。各学会への事後分配金（剰余金の配分）は違法となることがわかったため、今後相談していく。
- ・海外招待演者講演招聘に関しては、支払いの上限を決め、その範囲内で各学会の希望による自由裁量とする。
- ・2026年については開催期間・開催地は未定だが、展示機器の輸送の軽減等を企業側が望んでいるため、アクセスがいい大都市の会場を選ぶ。

#### ⑪ その他の委員会報告

##### 財務委員会

予算の申請について期限までの提出を依頼した。

## プロジェクト委員会

- ・前回理事会においてインセンティブ支払い案の再考を求められた件で、インセンティブはなしとし、必要経費のみの請求は認めることになった。
- ・JSSRが監修しているガイドラインの中で長年未解決となっている点を研究テーマとしていく。「頸髄症術後の頸椎カラーの有用性」が最有力のテーマで、WGを作って進めていく方針である。

## ⑫ その他（名誉会員推薦 声掛け、学術集会時の委員会開催意向等）

- ・名誉会員の推薦についてこの理事会後、事務局から配布する推薦票に必要事項を記載の上、提出をお願いしたい。審議は2月の理事会を予定している。現名誉会員や評議員の年齢などをまとめたリストを回覧する。
- ・4月札幌でのJSSR学術集会での委員会開催について、後日事務局から希望票を配布するので、期日までに希望を送ってほしいと依頼した。またその際に、4月の理事会の日時等の情報についても回覧予定である。
- ・次回の理事会開催日：2月20日（月）14:00-16:00

以上

令和5年1月16日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三